

---

### 3月11日(3)

(森安章人、SOS! 500人を救え! 3・11 石巻市立病院の5日間、2013、p.36)

2014年7月4日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

この文章は、2011年3月11日に起きた、東日本大震災と当時の医療現場について書かれたものである。筆者は、その当時、石巻市立病院の医師をしていた。

#### ・津波

『海全体が盛り上がり陸地へ流れ込むものだった。』『車も家も、地上にあるすべてのものが静かに浮き上がり、そのままの状態で見送られていく。』などのように、津波についてとてもリアルに描かれている。津波を実際に見た筆者は映画を見せられているような感じがしたと言っている。

#### ・黒い水

まずは1階、続いて1階と2階の間の踊り場、のように病院内に水がどんどん侵入してくる様子が描かれている。患者の退避として、自力で動ける患者には自力で動いてもらい、自力で動けない患者には、担架を使い、停電なのでエレベーターは使えず、階段での人手による移動を行った。地震発生時に行われていた手術は、災害マニュアルに従って、地震発生と同時に中止され、手順よく仮処置が行われ、津波が来襲した時には、ICUに移動できる状態となっていた。災害対策本部も2階から3階へと移された。

#### ・排泄処理

津波襲来時、病院災害対策本部にあった水は、自動販売機の水やポットの中の水、調理用の水、患者用備蓄ペットボトル、薬剤部から届けられた洗浄用蒸留水等、ごく限られていたため、排泄処理は特に困難を極めた。また、窓からの外の光景については、4階に移動したことにより、2階で見たよりも全体が見渡せる分、より凄惨さを極めていた。

#### ・死にゆく人

津波によって流されていく車の中にいる元気な人間が数分後に迎える死と、一方で、医療に携わる者の扱う死。震災当時、さまざまな死が混在していた。後者は病気との闘いの最終章としての死なので、いろいろと手を尽くし時間をかけて受け入れることのできる死であるが、前者について考えるとやるせない虚しさがこみあげてきた、と筆者は言っている。

#### ・紙カルテ

震災前に電子カルテ化されていたが、震災後は停電となり、パソコンはとても使える状態ではなかった。しかし石巻市立病院では、停電対応に以前から申し合わせがあり、そのための訓練も行われていたため、すでに準備されていた紙カルテで訓練通り、つまり電子カルテ化以前に戻すというだけのことであるが、紙カルテによる医師指示・看護記録を行うことで、スムーズに行動ができた。